

巻 頭 言

本学会の年報も創刊以来才10号を迎えることができたことは誠によろこばしい限りです。

これもひとえに世話人の皆様の献身的な奉仁と会員の皆様の積極的な協力があったからと思います。

昨年12月に仙臺で開かれた才10回年会において、和算研究家として有名な平山 諦先生を迎え、記念講演をしていただいたことは、特筆すべきものでしょう。

さて、小、中、高の新学習指導要領の発表や本年度の大学入試から導入された共通一次テストの採用などの数学教育に及ぼす影響が考えられ、これからの大きな研究課題となることでしょう。

つぎに、日頃 数学教育に携わっていて痛切に感ずることは、最近の学生達には論理的思考に欠ける者が非常に多いことです。この原因として考えられるのは、先ず日常生活において自分で考えて物事を処理する習慣が少ないことで、小、中学校時代からのテレビの見過ぎや読書時間の少ないこと、また作文力の欠如などがあげられるが、数学教材の中にも次第に論理的教材が少なくなりつつあり、たとえばユークリッド幾何は中学校で扱われるに過ぎない。矢野健太郎氏は数学セミナー(昭54.4)の中で、中、高校から大学へかけての幾何教育の不徹底さを指摘している。

このように論理的思考力の乏しい学生の増加は数学教育の学習指導上、大きな障害となっている。この解決のため、会員の皆様の研究成果を期待したい。

早坂 茂(宮城高専)